

一貫教育校の広場

新本校舎竣工後の新たな動き

● 普通部 教諭 林 和慶 はやし かずのぶ

三田綱町校舎を戦災で失い、1951年の日吉への移転から六十余年、白亜の本校舎で1万5000名近い普通部生が学びました。その本校舎を建て替えることとなり、多方面からのご支援とご協力をいただいた結果、2015年2月に竣工しました。地上3階、建築面積1677㎡、延べ床面積4861㎡で、生徒一人一人が使える空間を広くすること（ホームルームは68㎡から90㎡へ）に加え、6クラス横一列配置、教室を多く確保すること、木の温もり感を持たせることを目指しました。

出来上がってみると、広い廊下、広いホームルーム、広い窓、一人一人の広めの机とロッカー等、あらゆる点でスペースに余裕が生じ、廊下での生徒同士の衝突も減り、笑顔、声かけが増え、素直でなごやかな雰囲気醸成されています。

また、ホームルームの向かいに70㎡の教室を対に配置（北側教室と呼ばれています）し、分割授業、グループ学習型授業や将来の多様なクラス編成等に対応できるようにしました。2・3年生のホームルーム12部屋に加え、北側教室も12部屋あり、全24部屋に電子黒板機能付きのプロジェクトターを設置しました。

その結果、以前と比べてさまざまな場面で映像を用いる頻度が増し、新たな動きも出てきました。例えば、ある理



科の授業では、映像を見せる他、投影画面に電子ペンで書き込みながら説明し、重要事項をスクリーンの左右にある黒板に板書して生徒の理解を助けています。北側教室で行われている英語の授業では、iPadを各自に配布して英語の本を自分のペースで読める環境を提供し、授業支援アプリのロイノートを用いてペアでのスピーキングテスト等を実施しています。同様に、数学でも立方体の切断を学



ぶ際、iPadを配布して、課題の配布・提出・発表を行っている授業があります。ある保健体育の授業では、映像での説明の他、人の機能理解のために映像を使って錯視を体感したり、現場での実技見本に加え、映像を用いた動作分析を行っています。運動部でも、映像で動作分析を行っている部があります。総じて、生徒同士での発表にも

使われ、授業の双方向性も高まっています。その他、北側教室を同時に2部屋用いた授業やホームルーム活動時のちょっとした居場所や面談室としての利用もあります。

さらに、新本校舎では、屋上の遊び場もよく活用され、普通部資料のアーカイブを行う部屋も稼働しています。校舎は最大の教具とも言われており、普通部に集う教員・生徒がその真価をさらに引き出し、普通部教育が一層進化していくことを願っています。

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)